

安全データシート

Japan

1. 化学品及び会社情報

製品名 **Cy™ 5.5 Hydrazide, 1 mg**

コード番号 **PA15621**

製品タイプ 固体。

作成日 2/6/2015

発行日/改訂版の日付 2019年9月30日

前作成日 2017年3月22日

推奨用途及び使用上の制限

意図される使用

Use in laboratories

供給元

Cytiva Japan
191-8503
4-7-127, Asahigaoka Hino city, Tokyo
JAPAN
TEL +81 3 5331 9336
FAX +81 3 5331 9370

製造元

Cytiva
Amersham Place
Little Chalfont
Buckinghamshire
HP7 9NA United Kingdom
+44 0800 515 313

2. 危険有害性の要約

GHS 分類 急性毒性: 経口 - 区分4
急性毒性: 皮膚 - 区分4
急性毒性: 吸入した場合 - 区分4
呼吸器感作性 - 区分1
皮膚感作性 - 区分1

GHS ラベル要素

危険有害性の絵文字



注意喚起語

危険

危険有害性情報

飲み込んだり、皮膚に接触したり、吸入すると有害。
吸入するとアレルギー、ぜん（喘）息又は呼吸困難を起こすおそれ。
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。

注意書き

概要

安全対策

保護手袋を着用すること。保護手袋／衣類を着用すること。換気が十分でない場合には、呼吸用保護具を着用すること。屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。粉塵の吸入を避けること。この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。取扱い後はよく手を洗うこと。汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

応急措置

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は医師に連絡すること。呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。飲み込んだ場合：気分が悪い時は医師に連絡すること。口をすすぐこと。皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の手当てを受けること。

保管

非該当

廃棄

内容物および容器を現地、地域、国および国際的規則に従って廃棄すること。

他の危険有害性 認知済みのものは無し。

3. 組成および成分情報

化学物質／混合物	化学物質			
化学名	Cy5.5 (hydrazide)			
化学物質を特定する他の方法	非該当			
CAS 番号／他の特定名				
CAS 番号	非該当			
ENCS 番号	非該当			
ISHL 番号	非該当			
成分名	%	CAS 番号	官報公示整理番号 (化審法)	官報公示整理番号 (労安法)
Cy5.5 (hydrazide)	100	-	非該当	非該当

本製品の補足的な成分の中には、現在の知識の範囲および該当する濃度において、このセクションで報告が義務づけられている健康または環境に対して有害危険性であると分類される成分は含まれていません。

暴露限界がある場合、セクション8に記載されている。

4. 応急措置

必要な応急処置の説明

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。煙霧が残存している疑いがある場合、救助隊は適切なマスクあるいは自給式呼吸器を着用しなければならない。呼吸していない場合、呼吸が不規則な場合、あるいは呼吸停止が起きた場合には、適切な訓練を受けた者が人工呼吸あるいは酸素吸入を行う。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。医師の診断を受ける。必要に応じて医師に連絡する。意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。火災による分解生成物を吸入した場合、症状は遅れて発生することがある。暴露された人を48時間医師の観察下に置く必要がある。何らかの不快感や症状があるときはそれ以上の暴露を避ける。
飲み込んだ場合	水で口を洗浄する。入歯をしている場合ははずす。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。物質を飲み込んだ場合、被災者の意識があれば少量の水を飲ませる。嘔吐すると危険なことがあるので、もし被災者の気分が悪くなったらそれ以上水を飲ませてはならない。医師の指示がない限り、吐かせてはならない。もし嘔吐が起きた場合は嘔吐物が肺に入らないように頭を低い位置に保つ。医師の診断を受ける。必要に応じて医師に連絡する。意識がない場合、決して口からものを与えてはならない。意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。
皮膚に付着した場合	多量の水と石鹸で洗うこと。汚染された衣服および靴を脱がせる。汚染された衣服を取り除く前に汚染された衣服を水で十分に洗うか、または手袋を着用する。少なくとも10分間洗い流し続ける。医師の診断を受ける。必要に応じて医師に連絡する。何らかの不快感や症状があるときはそれ以上の暴露を避ける。衣類は、再着用の前に洗濯する。靴は再使用前に十分に洗浄する。
眼に入った場合	すぐに多量の水で、時々上下のまぶたを持ち上げながら眼をすすぐ。コンタクトレンズの有無を確認し、着用している場合にははずす。少なくとも10分間洗い流し続ける。炎症が生じた場合、医師の診察を受ける。

最も重要な急性および遅発性の症状/影響

起こりうる急性毒性

眼に入った場合	重大な作用や危険有害性は知られていない。
吸入した場合	吸入すると有害。吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ。分解生成物に暴露すると、健康を害することがある。暴露すると、重大な影響が遅れて発生することがある。
皮膚に付着した場合	皮膚に接触すると有害。アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。
飲み込んだ場合	飲み込むと有害。
短期暴露	
潜在的な遅発性作用	非該当
過剰暴露の徴候/症状	
眼に入った場合	特にデータは無い。
吸入した場合	有害症状には以下の症状が含まれる: 喘鳴および呼吸困難 喘息
皮膚に付着した場合	有害症状には以下の症状が含まれる: 刺激 発赤
飲み込んだ場合	特にデータは無い。

必要に応じた速やかな医師の手当てと必要とされる特別な処置の指示

医師に対する特別な注意事項	火災による分解生成物を吸入した場合、症状は遅れて発生することがある。暴露された人を48時間医師の観察下に置く必要がある。
特定の治療法	特定の治療法はない。

応急措置をする者の保護	人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。煙霧が残存している疑いがある場合、救助隊は適切なマスクあるいは自給式呼吸器を着用しなければならない。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。汚染された衣服を取り除く前に汚染された衣服を水で十分に洗うか、または手袋を着用する。
有害性情報を参照(セクション11)	

5. 火災時の措置

消火剤	
適切	火災に応じた消火剤を使用する。
使ってはならない消火剤	認知済みのものは無し。
火災時の措置に関する特有の危険有害性	特定の火災爆発の危険有害性はない。
有害な熱分解生成物	分解生成物には以下の物質が含まれることがある: 二酸化炭素 一酸化炭素 窒素酸化物 硫黄酸化物類 ハロゲン化合物
消火を行う者に対する注意事項	火災が発生したら、すみやかに火災現場から人員を退避させ現場を隔離する。 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。
消火を行う者の特殊保護具	消火を行う者は適切な保護器具と、陽圧モードで動作するフルフェース部分を備えた自給式の呼吸器具を装着しなければならない。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	
緊急時要員以外の人員用	人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。 周辺地域の人々を避難させる。 関係者以外ならびに保護用具を着用していない作業員の入室を禁じる。 漏出した物質に触れたり、その上を歩いたりしてはならない。 十分な換気を行う。 換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。 適切な個人保護装置を着用する。
緊急時の責任者用	流出分の取り扱いに専用衣類が必要な場合には、適切および不適切な物質に関するセクション8に記載の情報に注意しなければならない。「緊急時要員以外の人員用」の情報も参照。
環境に対する注意事項	漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。 製品が環境汚染(排水、水路、土壌または大気)を起したときは、関係する行政当局に報告する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	
少量流出	漏出区域から容器を移動する。 粉塵の発生を避けること。 HEPAフィルター付き真空吸引機を使用すれば粉塵の飛散を減少させることができる。 漏洩物は指定された、ラベルの貼られた廃棄物用容器に入れること。 許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。
大量流出	漏出区域から容器を移動する。 放出現場には風上から近づくこと。 下水溝、水路、地下室または密閉された場所への侵入を防止する。 粉塵の発生を避けること。 乾燥状態で掃かないこと。 粉塵をHEPAフィルター付きの器具で吸い取り、ラベルが貼られた密栓付きの廃棄物用容器に入れること。 許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。 注意: 接触時の情報はセクション1を、廃棄処理はセクション13を参照して下さい。

7. 取扱い及び保管上の注意

安全に取扱うための注意事項	
保護措置	適切な個人保護具を使用すること(セクション8を参照)。 皮膚感作障害あるいは喘息、アレルギー、慢性または頻発呼吸器疾患の病歴を持つ者を、本製剤が使用されるいかなる工程にも就業させてはならない。 眼、皮膚および衣類に触れないようにする。 摂取してはならない。 換気が十分な場所でのみ使用する。 換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。 使用しないときは元の容器又は適合素材で作られた認可済みの代替容器に入れ、密閉して保存する。 容器が空でも製品の残留物が残存していて有害危険性がある。 容器を再利用してはならない。
一般的な職業衛生に関する助言	本物質の取扱い、保管、作業を行う場所での 飲食および喫煙は厳禁。 作業者は飲食、喫煙の前に手を洗うこと。 飲食区域に入る前に汚染した衣類と保護具を脱ぐこと。 同様にセクション8の衛生措置に関する追加情報も参照。
安全に保管するための注意事項	現地の法規制に従って保管する。 元の容器に入れ、換気の良い乾燥した冷所で直射日光を避け、混合禁止物質(セクション10を参照)および飲食物から離して保管する。 使用直前まで、容器は固く閉め封印して保管する。 いったん開けた容器は入念に再密閉し、漏出を防ぐため直立させて保管する。 ラベルのない容器に保管してはならない。 環境汚染を避けるために適切な容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度	
曝露限界	
成分名	暴露限界値
なし。	
適切な技術的管理	換気が十分な場所でのみ使用する。 行程囲壁、局所排気通風装置あるいはその他の技術的管理設備を使用し、作業者が暴露される空中浮揚汚染物質濃度をあらゆる推奨あるいは法定暴露限界以下に保つ。

環境暴露管理	換気装置および作業工程装置からの排出物を検査し、環境保護の法律規制の要件に適合していることを確認しなければならない。 場合によっては排出物を許容レベル以下に下げるために煙霧清浄機やフィルター、あるいは行程装置の技術的改良が必要になることもある。
個人の保護措置	
衛生対策	化学製品の取り扱い後は、食事、喫煙、およびトイレの使用前、さらに作業時間の最後に、両手、両腕の肘から手首までの部分、また顔を十分に洗う。 汚染された可能性のある衣類を取り除く際には、適切な技術を用いる。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 汚染された衣類は、再着用の前に洗濯する。 作業場所の近くに洗眼スタンドと安全シャワーが設置されていることを確認する。
保護眼鏡/保護面	リスク評価によって必要とされるときは、液体の飛まつ、ミスト、ガスあるいは塵埃への暴露をさけるため、承認された基準に合格した安全眼鏡を着用する。 接触の可能性がある場合、評価によってより高次の保護が指摘されている場合を除いて次の保護具を着用しなければならない： 側方シールド付の保護眼鏡。
皮膚の保護	
手の保護具	リスク評価によって必要とされるときは、化学製品の取り扱いの際、承認された基準に合格した耐化学品性で不透水性の手袋を常に着用する。 手袋製造業者により特定されたパラメータを考慮して、手袋の使用中に手袋がまだ保護性を維持しているかを確認すること。 あらゆる手袋の材料は製造業者が異なれば透過時間も異なる可能性があることに注意する必要がある。 いくつかの物質から成る混合物の場合には、手袋の保護時間を正確に推定することはできない。
身体保護具	作業者の身体保護衣は、行う作業の内容および関連するリスクに基づいて選択しなければならない、さらにこの製品を取り扱う前に専門家の承認を受けなければならない。
その他の皮膚保護具	この製品を取り扱う前に、行う作業とそれに付随するリスクに基づき適切な履物および何らかの追加的な皮膚保護具を選択し、専門家の認可を受けなければならない。
呼吸用保護具	リスク評価によって必要とされるときは、承認された基準に合格した、微粒子除去フィルター付きの呼吸装置を使用する。 使用する呼吸保護具は、既知もしくは予測される暴露量、製品の危険有害性、選択される呼吸保護具の安全作動限度に基づいて選択しなければならない。

9. 物理的及び化学的性質

外観	
物理的状态	固体。
色	青。[暗色]
臭い	無臭。
臭いのしきい	非該当
pH	非該当
融点	非該当
沸点	非該当
引火点	[製品は燃焼が持続しない。]
燃焼点	非該当
蒸発速度	非該当
燃焼性(固体, 気体)	次の物質および条件の存在下で引火性ではない： 裸火、火花、および放電、熱、ショックおよび機械的衝撃、酸化性物質、還元性物質、可燃性物質、有機物質、金属、酸、アルカリおよび湿気。
爆発(燃焼)限界の上限および下限	非該当
蒸気圧	非該当
蒸気密度	非該当
比重	非該当
溶解度	以下の物質に容易に溶解する： 冷水 および 温水。
水への溶解度	非該当
n-オクタノール／水分配係数	非該当
自然発火温度	非該当
SADT	非該当
分解温度	非該当
粘度	非該当
流出時間(ISO 2431)	非該当
分子量	1045.11 g/mole
燃焼時間	非該当
燃焼速度	非該当

10. 安定性及び反応性

反応性	この製品またはその成分に関しては、反応性に関する利用可能な具体的試験データはない。
化学的安定性	製品は安定である。
危険有害反応可能性	通常の貯蔵および使用条件下では、有害な反応は起こらない。
避けるべき条件	特にデータは無い。
混触危険物質	特にデータは無い。

危険有害な分解生成物

通常の保管及び使用条件下では、危険な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

毒物学的作用に関する情報

急性毒性

製品 / 成分の名称	結果	種類	投与量	暴露時間
非該当				

刺激性/腐食性

製品 / 成分の名称	結果	種類	スコア	暴露時間	観察
非該当					

感作

製品 / 成分の名称	暴露経路	種類	結果
非該当			

変異原性

製品 / 成分の名称	テスト	試験	結果
非該当			

発がん性

製品 / 成分の名称	結果	種類	投与量	暴露時間
非該当				

結論/要約

私共の知見のおよぶ限りでは、この物質の毒学的性質はまだ完全に研究されてはいません。

生殖毒性

製品 / 成分の名称	妊娠毒性	妊性	発生毒性	種類	投与量	暴露時間
非該当						

催奇形性

製品 / 成分の名称	結果	種類	投与量	暴露時間
非該当				

特定標的臓器／全身毒性(単回暴露)

非該当

特定標的臓器／全身毒性(反復暴露)

非該当

呼吸に対する危険有害性

非該当

可能性のある暴露経路についての情報

予想される侵入経路: 経口、経皮、吸入した場合。

起こりうる急性毒性

吸入した場合	吸入すると有害。吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ。分解生成物に暴露すると、健康を害することがある。暴露すると、重大な影響が遅れて発生することがある。
飲み込んだ場合	飲み込むと有害。
皮膚に付着した場合	皮膚に接触すると有害。アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。
眼に入った場合	重大な作用や危険有害性は知られていない。

物理的・化学的および毒物学的な特性に関連する症状

眼に入った場合	特にデータは無い。
吸入した場合	有害症状には以下の症状が含まれる: 喘鳴および呼吸困難 喘息
皮膚に付着した場合	有害症状には以下の症状が含まれる: 刺激 発赤
飲み込んだ場合	特にデータは無い。

遅発性および即時性の影響ならびに短期および長期の暴露による慢性的な影響

短期暴露

潜在的な即時性作用	非該当
潜在的な遅発性作用	非該当

長期暴露

潜在的な即時性作用	非該当
潜在的な遅発性作用	非該当

非該当					
概要	一度感作されると、それ以後非常に低濃度に暴露しても重度のアレルギー反応を起こすことがある。				
発がん性	重大な作用や危険有害性は知られていない。				
変異原性	重大な作用や危険有害性は知られていない。				
催奇形性	重大な作用や危険有害性は知られていない。				
発育への影響	重大な作用や危険有害性は知られていない。				
生殖能力に対する影響	重大な作用や危険有害性は知られていない。				
毒性の数値化					
急性毒性の推定					
製品 / 成分の名称	経口 (mg/kg)	経皮 (mg/kg)	吸入 (ガス) (ppm)	吸入 (蒸気) (mg/l)	吸入 (ダストおよびミスト) (mg/l)
Cy5.5 (hydrazide)	500	1100	N/A	N/A	1.5
その他の情報	非該当				

12. 環境影響情報

毒性	非該当
残留性・分解性	非該当
生体蓄積性	非該当
土壤中の移動性	
土壌/水分分配係数(K _{oc})	非該当
移動性	非該当
オゾン層への有害性	非該当
その他の悪影響	重大な作用や危険有害性は知られていない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法	廃棄物の発生は避けるか、あるいは可能な限り少なくする必要がある。この製品、製品の溶液およびあらゆる副生成物の処分は、常に環境保護および廃棄物処理に関する法律の定める要求事項、および現地法の定める要求事項に従わなければならない。余剰またはリサイクルできない製品は許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処理する。管轄当局の要件に完全に準拠しない限り、廃棄物を無処理で下水道に流してはならない。不要な包装材料は再利用しなければならない。焼却または埋め立ては、再利用が不可能な場合にのみ検討すべきである。この材料およびその容器は安全な方法で廃棄しなければならない。清掃または洗浄されていない空容器を取り扱う際には注意しなければならない。空の容器や中袋に製品が残留している可能性がある。漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。
------	--

14. 輸送上の注意

	UN	IMDG	IATA
国連番号	非該当	Not regulated.	Not regulated.
品名(国連輸送名)	—	—	—
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	—	—	—
容器等級	—	—	—
環境有害性	該当せず。	No.	No.
追加情報	—	—	—

使用者のための特別な予防措置

使用者の施設内での輸送: 直立型の安定した容器に入れて輸送する。本製品の輸送者が事故や漏出の際の対処法を理解していることを確認する。

**MARPOL条約の附属書IIおよびIBC
コードによるばら積み運搬**

非該当

15. 適用法令**消防法**

非該当

消防法 - 妨害物質

非該当

船舶安全法危険物の海上運送規制に関する通達

非該当

容器等級

非該当

労働安全衛生法特定化学物質の用途

非該当

ラベルに関する規定

非該当

名称等を通知すべき危険物及び有害物

非該当

発がん性物質

非該当

変異原性物質

非該当

腐食性液体

非該当

労働安全衛生法: 別表第一

非該当

鉛中毒予防規則

非該当

四アルキル鉛中毒予防

非該当

製造の許可を受けるべき有害物

非該当

製造等が禁止される有害物等

非該当

危険物

非該当

有機溶剤中毒予防規則

非該当

化審法

非該当

毒物及び劇物取締法

非該当

化学物質排出把握管理促進法(PRTR)

非該当

日本産業衛生学会 発がん性物質

非該当

海洋汚染および海洋災害防止法

非該当

道路法 非該当

特別管理産業廃棄物リスト 非該当

国際規格**化学兵器禁止条約リストスケジュールI、II、IIIの化学物質**

非該当。

モントリオール議定書(付属文書A、B、C、E)

非該当。

残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約

非該当。

事前通報承認制度(PIC)に関するロッテルダム条約

非該当。

POPおよび重金属に関するUNECEオルフス(Aarhus)議定書

非該当。

国際リスト**国別目録**

日本	未確定。
ヨーロッパ	未確定。
米国	未確定。
カナダインベントリー	未確定。
中国	未確定。

16. その他の情報**履歴**

印刷日 5/6/2020

発行日/改訂版の日付 2019年9月30日

前作成日 2017年3月22日

バージョン 6

sds_author@cytiva.com

ATE = 急性毒性推定値

BCF = 生物濃縮係数

GHS = 化学品の分類および表示に関する世界調和システム

IATA = 国際航空輸送協会

IBC = 中型運搬容器

IMDG = 国際海上危険物

LogPow = オクタノール/水の分配係数の対数

MARPOL = 海洋汚染防止条約、1973年の船舶による汚染の防止のための国際条約に関する1978年の議定書

。 ("Marpol" = 海洋汚染)


N/A = データなし

UN= 国際連合

分類を行うために使用する手順**分類****正当化**

急性毒性(経口) - 区分4
急性毒性(皮膚) - 区分4
急性毒性(吸入した場合) - 区分4
呼吸器感作性 - 区分1
皮膚感作性 - 区分1

専門家の判断
専門家の判断
専門家の判断
専門家の判断
専門家の判断

参照 非該当 前バージョンから変更された情報**注意事項**

我々の知る限りにおいて、ここに記載した情報は正確です。しかしながら、上記の供給業者あるいはその子会社のいずれも、ここに記載した情報の正確さあるいは完全性に関していかなる責任も負うものではありません。製品の適合性については、ご使用各位の責任において決定してください。全ての物質は未知の危険有害性を含んでいる可能性があるため、取り扱いには細心の注意が必要です。ここには特定の危険有害性が記載されていますが、これらが存在する唯一の危険有害性であることが保証されているものではありません。